

# 調 査 研 究 彙 報

## 建 造 物 研 究 室

**滋賀県下庭園の実測調査** 滋賀県下の県指定名勝庭園の実測調査を行った。今年度は犬上郡甲良町の西明寺本坊庭園 (1220㎡)、坂田郡近江町の乗照寺庭園 (170㎡)、伊香郡高月町の理覚院庭園 (213㎡) の3ヶ所について、縮尺100分の1ないし50分の1、等高線間隔0.5mの実測図を作成した。1986年9月。  
(安原・田中・高瀬・本中)

**建造物修理古写真の整理** 文化庁建造物課より移管された、関東大震災以後戦前までの修理写真約3万枚のガラス乾板の整理を行った。整理方法は重要文化財建造物指定目録の順に、乾板1枚ごとに整理番号を付け、35mmの写真を撮り、基本台帳を作製した。  
(鳥田)

## 歴 史 研 究 室

**興福寺典籍古文書の調査** 昨年度にひきつづいて、同寺所蔵の古文書聖教函のうち、第41函以下、興福寺古文書目録第2巻に記載する部分について確認のための調査と写真撮影を行った。1987年1月。  
(鬼頭・綾村・寺崎・館野・八幡)

**法隆寺典籍古文書の調査** 昭和資財帳調査の一環として、記録、古文書の調査を行った。丙5函から阿4函までの調書の作製と写真撮影を行った。  
(鬼頭・八幡)

**薬師寺典籍古文書の調査** 東京大学史料編纂所との共同調査で、第6回目にあたる。前回にひきつづいて、20~24函の調書の作製、25函の整理を行い、あわせて写真撮影を行った。1986年7月。  
(鬼頭・加藤・綾村・八幡)

**醍醐寺古文書調査** 前回にひきつづき同寺所蔵の古文書の調査、写真撮影を行った(13函)。また、前年にひきつづき文化庁美術工芸課の依頼によって、同寺所蔵の古文書100函分の指定調査に参加、協力した。1986年8月。  
(鬼頭・綾村・橋本・館野・八幡)

**仁和寺古文書の調査** 前回にひきつづいて、150、151、152函の調書を作製した。1987年3月。  
(鬼頭・綾村・寺崎・館野)

**西大寺古文書の調査** 前回にひきつづいて、80函以下の調書の作製と古文書の整理を行った。1987年3月。  
(鬼頭・綾村・橋本)

**その他の調査** 石山寺、1986年7~8月、12月。  
(加藤・綾村・橋本)

## 平城宮跡発掘調査部

**特別研究 平城宮跡朱雀門の意匠と構造に関する研究** 同研究の初年度のテーマとして、意匠については1965年度製作の復原模型をベースにした改訂案の作製、構造については基礎工法研究会(委嘱委員8名)に提示し、有益な指導と助言を得た。この研究は次年度にも引続がれる予定である。  
(細見・内田)

**春日大社境内の実態調査と整備構想の策定（第1年度）** 春日大社境内地の総合的な整備に向けて、自然・人文・社会環境調査を本年度から開始した。まず、参道にかかる各種の橋について実測調査を行うとともに、境内の橋に関連する文献・資料の収集を行った。また、境内地の現在の景観評価を行い、整備構想への一指標とした。（細見・田中・本中）

**縄生廃寺出土舍利容器の復原** 三重県三重郡朝日町教育委員会から保存修復依頼を受けた縄生廃寺塔跡出土舍利具一式（唐三彩杯・石製外容器・ガラス舍利容器）について、埋蔵文化財センター保存科学研究室と共同で復原作業を行い、あわせて関連資料の収集を行った。（巽）

**神野向遺跡の発掘調査** 常陸国鹿島郡衙推定地の第6次調査。昨年度は郡庁の外郭を方2町として調査を行ったが確認に至らず、今年度は東と北にさらに50mほどトレンチを延ばした。成果としては北トレンチで北限にかかわる東西溝の一部を検出したのにとどまり、外郭の確認は次年度の課題として残った。茨城県鹿島町所在。1986年4月～10月。（毛利光・松村）

**「エブリ」型農具の再検討** 福岡市那珂久平遺跡で弥生時代の泥除け付鋏が出土したことを契機に、畿内の弥生、古墳時代農具の見直し作業を進めた。その結果、「エブリ」の一部を泥除け板と考えるに至った。「エブリ」には、横長で下端部に鋸歯状の歯を作り出したものと、薄手で平面が円形・長方形を呈するものがあり、後者を泥除け板と考える。これに組合う鋏は、裏面に蟻柄をもつ広鋏、あるいはゲタの刃状の造り出しであろう。（金子）

#### 埋蔵文化財センター

**法隆寺領播磨国鷓鴣荘園詳細分布調査** 兵庫県揖保郡太子町は、嘉暦4年（1329）などの年記をもつ絵図が、法隆寺に伝来することで有名な中世荘園の故地である。水利灌漑ならびに通称地名などの現地聞き取り調査を、本年度は西北部の馬場地区において行った。（田中琢・岩本）

**讃岐国分寺跡の発掘調査** 史跡整備に先立つ発掘調査の第4年次。僧房の北に小子房はなく、金堂西方で西、北回廊を検出し、大官大寺式の伽藍配置が判明。推定講堂の西方で7間×4間の掘立柱南北棟を検出したが、性格不明。国分寺町教育委員会。1986年10月。（上原）

**大内氏遺跡築山跡の電気探査** 山口市教育委員会が行う電気探査による園池規模の確認調査を指導。池の西岸及び築地と東辺の池岸を推定したが、南北辺は未測定。探査の結果は発掘調査によって確認することになっている。（西村）

**蓮ヶ池横穴群の保存工事** 宮崎市所在。凝灰岩質砂岩を削り込んだ横穴は外気に接している部分の風化が激しい。羨道部がすでに崩壊しているものは、ステンレス製の骨組みをし、ウレタンフォームで復原・成形した。さらに、FRPで全体を密封し、エポキシ樹脂に土壌を練り合わせた擬土で整形し、全体を樹脂硬化した。（沢田・肥塚・安原）

**ペンタックス645の精度チェック** フィルムの真空圧定装置及び指標を付け写真測量用に改造した試作カメラの精度チェックを行った。精度は圧定装置のないときに比べると著しく向上した。このチェックで、フィルムのカーリングが誤差の主因の一つであることが確認出来た。（木全）